

公衆衛生学	2 年・前期	1 単位 15 時間	教授 島田 昇
科目カテゴリー	看護の対象の理解	科目ナンバリング	32310422

1. 授業のねらい・概要

公衆衛生学は、個人の衛生と個人では解決できない問題に対し、社会の組織的協力により解決することで、人々がよりよく生きることができるようにするための知識、科学・技術の体系である。少子高齢化、医療費の逼迫、健康志向の上昇などの社会情勢もあり、疾病以前の人々の健康維持・増進を図る予防活動への要求が高まっている。健康問題を集団として取り扱い、科学的根拠に基づいて、その背景や課題解決の方策について理解を深めることで、看護師、保健師として、生涯を通じた健康の保持増進のためにどう考え、実践すべきかを理解する。

2. 学修の到達目標

1. 「生存権」を使用し、日本国憲法第 25 条について説明することができる。(D-1)
2. 予防の概念について、3 つ段階の具体策について述べることができる。(D-2)
3. ヘルスプロモーションの 5 つの戦略について述べることができる。(D-2)
4. 健康寿命について説明することができる。(D-2)
5. ソーシャルキャピタルについて「所得格差」、「死亡率」を使用し述べることができる。(D-2)
6. 健康日本 21（第三次）4 つの基本的方向性を述べることができる。(D-2)
7. がん検診の種類を 5 つ述べることができる。(D-2)
8. 食の安全性について、業者による HACCP について説明することができる。(D-2)
9. 典型 7 公害について述べることができる。(D-2)
10. 労働衛生の 5 管理について述べることができる。(D-2)

3. 授業の進め方

テキストに基づいた講義と、演習におけるグループワークを中心に授業を行う。

【アクティブ・ラーニング実施の有無】

アクティブ・ラーニングとして、グループワークを用いる。

【ICT 活用の有無】

ICT 活用の実施：Google Classroom による学習課題の提示。Gmail による学習教材の配信。
インターネットによる情報収集。

4. 授業計画（講義・演習）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	公衆衛生学概論 公衆衛生の歴史	講義 演習	予習：公衆衛生学第 1 章「公衆衛生学概論・公衆衛生の歴史」p2～19 を読んでまとめる。 復習：「公衆衛生を学ぶ意義」についてグループワークを講義内で行う。グループワークの内容を指定の用紙に記載し次回の講義にて提出する。	島田 昇
2	保健福祉行政	講義 演習	予習：公衆衛生学第 2 章「保健福祉行政」p22～40 を読んでまとめる。	島田

			復習：「社会保障制度」についてグループワークを講義内で行う。グループワークの内容を指定の用紙に記載し次回の講義にて提出する。	
3	健康増進・予防医学	講義演習	予習：公衆衛生学第4章「健康増進・予防医学」p74～92を読んでまとめる。 復習：講義内容の「健康行動理論の活用」についてグループワークを講義内で行う。グループワークの内容を指定の用紙に記載し次回の講義にて提出する。	島田
4	医療制度・地域保健・倫理的問題	講義演習	予習：公衆衛生学第5章「医療制度・地域保健・倫理的問題」p94～114を読んでまとめる。 復習：「我が国の医療制度」についてグループワークを講義内で行う。グループワークの内容を指定の用紙に記載し次回の講義にて提出する。	島田
5	環境保健	講義演習	予習：公衆衛生学第12章「環境保健」p248～266を読んでまとめる。 復習：「環境衛生の必要性」についてグループワークを講義内で行う。グループワークの内容を指定の用紙に記載し次回の講義にて提出する。	島田
6	栄養・食品保健	講義演習	予習：公衆衛生学第13章「栄養・食品保健」p268～289を読んでまとめる。 復習：「食の安全」についてグループワークを講義内で行う。グループワークの内容を指定の用紙に記載し次回の講義にて提出する。	島田
7	健康危機管理	講義演習	予習：公衆衛生学第14章「健康危機管理」p292～314を読んでまとめる。 復習：「災害時の比肩医療福祉チーム」についてグループワークを講義内で行う。グループワークの内容を指定の用紙に記載し次回の講義にて提出する。	島田
8	国際保健	講義	予習：公衆衛生学第15章「国際保健」p316～338を読んでまとめる。復習：「世界の健康課題」について調べて、ワークシートに記載する。	島田

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上の出席した者）70％，各回の演習課題（グループワークのまとめ）30％で総合的に評価する。合格基準は60％以上とする。合格基準に満たない（60％未満）場合は、単位認定できない。

成績評価は、「2. 学修の到達目標」に示した達成状況を、ルーブリック評価表を基に、5段階評価で採点する。尚、ルーブリック評価表に関する詳細については、第1回講義内で別途説明する。

演習課題（グループワークのまとめ）の内容、提出期限、提出方法（場所）、第1回講義内で紙面にて提示する。

定期試験の出題範囲及び出題方法等は、講義内にて口頭で説明する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：中村好一，春山早苗編（2025）なるほどなっとく！公衆衛生学 南山堂

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

シラバスの授業計画の範囲について最低90以上の予習及び、授業内容について90分以上の復習を実施

すること。

8. 受講上の留意事項

講義やグループワークには主体的に参加すること。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，授業に関係ない言動（スマホの使用等）は慎むこと。

講義時間開始後の無断での教室の入室および退出は慎むこと。

9. 課題に対するフィードバックフィードバック方法

試験の解答は試験後に口頭にて解説する。

提出された課題は教員が確認して返却する。内容が不備なものは再提出を求める。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合，進級不可となる。

11. 該当する本授業は，以下の実務経験を活かして実施される

行政委託機関及び，医療機関での保健師としての勤務経験を活かして，講義・演習を行う。